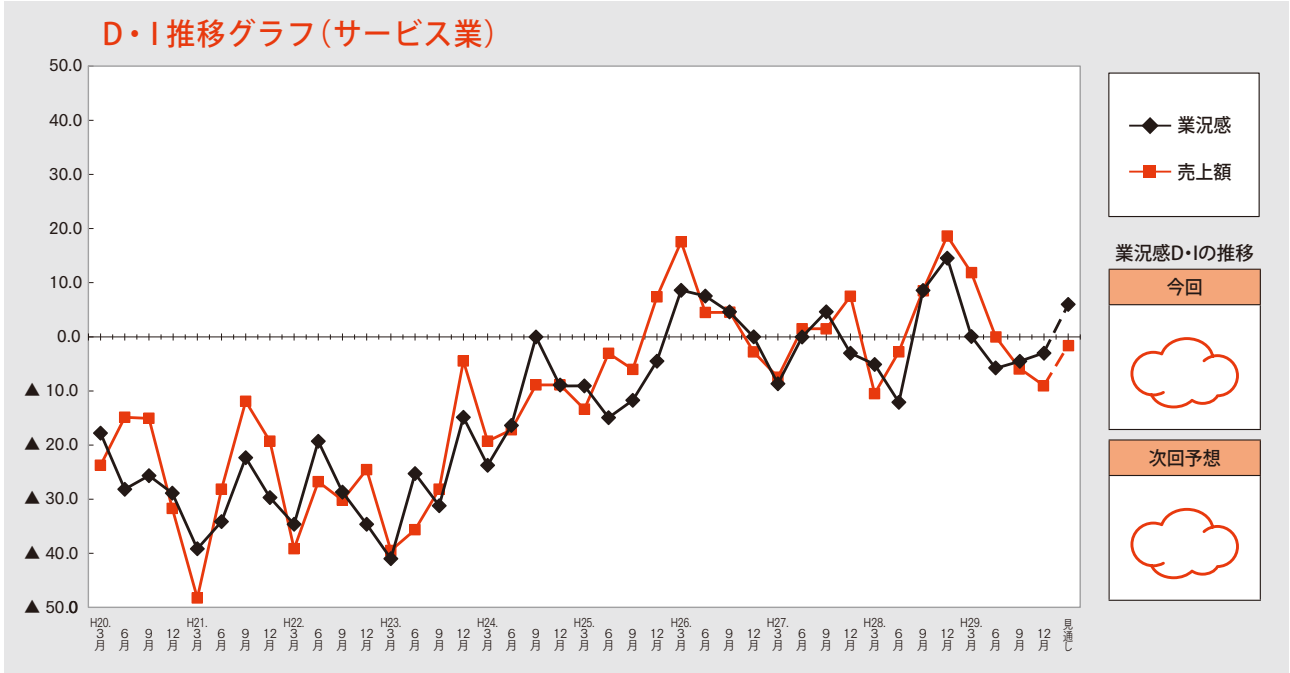


サービス業

Service industry

業況感やや改善



1 今期 (平成29年10－12月期)

今期の業況感は▲3.0 (前期▲4.4)となり、前期よりやや改善するも3期連続のD I値マイナスとなった。売上額▲9.0 (前期5.9)、収益▲3.0 (前期▲1.5)と共にマイナスとなっており、前期改善した人手についても再び不足感が高まり、設備の不足感も依然として続いている。

2 来期の予想 (平成30年1－3月期)

来期の業況感は6.0となり、D I値はプラスに転じる予想となっている。しかしながら、売上額、収益はやや改善する一方で、資金繰りは悪化する予想である。人手、設備についても不足感が続く見込みである。

DI値の推移 (過去1年と3ヶ月後の予想)

	H28. 12月期	H29. 3月期	H29. 6月期	H29. 9月期	H29. 12月期	来期 見込み
業況感	14.5	0.0	▲ 5.9	▲ 4.4	▲ 3.0	6.0
売上額	18.8	11.8	0.0	▲ 5.9	▲ 9.0	▲ 1.5
収益	21.7	1.5	0.0	▲ 1.5	▲ 3.0	1.5
料金価格	5.8	0.0	0.0	4.4	4.5	3.0
材料価格	▲ 14.5	▲ 8.8	▲ 4.5	▲ 2.9	▲ 7.5	▲ 7.5
在庫	—	—	—	—	—	—
資金繰り	▲ 5.8	▲ 8.8	▲ 11.8	▲ 11.8	▲ 10.4	▲ 17.9
人手	13.0	5.9	8.8	1.5	17.9	16.4
設備状況	23.2	16.4	9.0	11.8	11.9	10.4

業況調査メモ

鹿児島空港の2016年度国際線乗降客数は、前年度比30%増の21万4千人。開港後初めて20万人を超え、過去最高記録だった前年度を更新した。17年度4～9月の上半期も、前年同期比60.7%増と大きく伸び続け、年間では30万人に迫る勢いだ。これに伴い、県内のホテル・旅館ではインバウンドの宿泊客が増加している。城山観光ホテルの場合、16年度は前年度比4%増の1万8500人と総宿泊者数の11.3%を占め、17年度も4～8月は前年同期比75.3%増で推移、年間では15%に達する見込みである。ホテルなどのサービス業にとって、インバウンドへの対応はますます重要な経営課題になっている。